

來賓挨撈

皇太子殿下のおことば

2015年10月15日 開会式

国内外から多くの参加者を迎え、GEA国際会議2015が開催されることを、喜ばしく思います。

地球温暖化は、今や現実の問題として進行しています。例えば、温室効果ガスの継続的な排出は、更なる温暖化と気候システムの長期にわたる変化をもたらし、人々や生態系にとって深刻で広範囲にわたる不可逆的な影響を生じる可能性が高まると指摘されています。

このような中で、「気候変動対策と持続可能な社会の実現に向けて」をテーマとした本会議は、持続可能な開発に向けて世界の叡智を結集する貴重な機会です。1992年のリオ・サミットから20年を経た2012年6月、再びリオデジャネイロにおいて「国連持続可能な開発会議」が開催され、世界188か国により、持続可能な未来への道筋を描いた「我々が望む未来」という文書が合意されました。また、本年9月には国連において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、向こう15年間にわたる、新たな地球規模の持続可能な開発目標が決定されました。今、私たち一人一人が、私たちの望む未来に向けてどのように行動するかが、問われています。

この会議では、気候変動対策に関連する温室効果ガスの排出削減、持続可能な開発目標、学識経験者や研究者の果たす役割などについて、様々な分野の専門家を迎え、議論が行われると聞いております。

この会議で、私たちと、私たちの子孫、そして全ての生物が、いつまでも地球環境の恵みを楽しむことができるような未来に向け、活発な議論が行われ、世界に向けて発信されることを期待しています。そして、持続可能な社会の構築に向け、具体的な取組が更に進むことを願い、私の挨拶といたします。

安倍晋三 内閣総理大臣

2015年10月15日 開会式

皇太子同妃両殿下の御臨席を賜り、GEA国際会議2015が開催されるに当たり一言ご挨拶申し上げます。

この会議は四半世紀前の竹下元総理のリーダーシップに端を発しています。リオデジャネイロの地球サミットを成功させるため、世界のリーダーが東京に集まりました。

先月、国連の場で世界の首脳は『持続可能な開発のための2030アジェンダ』を採択しました。新たに気候変動対策、エネルギー、質の高いインフラ整備を盛り込みました。この世界が持続可能であるために、気候変動対策は避けて通れない。この認識が共有されました。

年末にはパリでCOP21が控えています。地球規模で進む気候変動には地球規模で対処しなければなりません。私は先進国、島嶼国などの首脳とこの危機感を共有しています。日本は「すべての国が参加する」公平で実効的な新たな国際枠組みをパリで作上げるため、最善を尽くします。

日本は強みである優れた低炭素技術を最大限に生かし、世界全体での温室効果ガスの削減に貢献していきます。

国内では2030年度の温室効果ガスの排出量を26%削減する、国際的に遜色のない野心的な目標を決定しました。その積み上げの基礎はエネルギーミックスです。「電力コストを引き下げる」、「エネルギー自給率は震災前の水準を上回る」、「欧米に遜色のない温室効果ガスの削減」の3つの要素を実現していきます。

温暖化対策の鍵はイノベーションです。先週、東京で国際会議、ICEF（アイセフ）を開催しました。世界の産学官のリーダーのネットワークを生かし、イノベーションの具体的な動きを生み出していきます。

日本の持つ優れた低炭素技術は、途上国に積極的に移転していきます。このため、2国間クレジット制度を構築し、具体的なプロジェクトを実施しています。パートナー国はアジア、アフリカ、中南米、大洋州の15カ国に達しました。各国の資金協力も組み合わせ、途上国の気候変動への対処能力の向上を包括的に支援していきます。

来年は日本がサミット議長国となり、伊勢志摩に世界のリーダーたちをお招きします。眼下に広がる志摩の豊かな海は、太平洋からインド洋にまでつながっています。アジアやアフリカのたくさんの国々の思いを胸に、日本は議長国として世界の平和と繁栄のため、世界のリーダーたちと率直に話し合いたいと思います。

さらに、せっかくの機会でもありますので、伊勢神宮を始め、日本の伝統や文化、美しい自然を存分に味わっていただきたい。日本の「ふるさと」のすばらしさを世界に発信する機会にしまいたいと考えています。

この地球には世界の人々のそれぞれのふるさとがあります。美しい地球を将来世代に引き継いでいくのが私たちの義務であります。

今回の会議でそのための実りある議論が行われることを期待し、私からのご挨拶とさせていただきます。